

Thermionic Culture Vulture

はじめに

本物のブティック、オールチューブ、スタジオのディストーション・ツール

Thermionic Culture Vulture は、他に類を見ないオールチューブのブティック・ハードウェアです。ディストーション・サウンドの愛好家にとって素晴らしい遊び道具といえます。15年以上もの間、この英国製のスタジオ・グレードのハイゲイン・バルブユニットは、無数のジャンルのレコーディングにおいて、分厚いサウンドの作成から唸るようなサウンドまで、鮮やかなディストーション・サウンドのカラーを提供してきました。

Thermionic Culture Vulture プラグインは、Universal Audio の数年に渡る徹底的なエンジニアリングにより、オンリーワンのバルブディストーション・ツールの本格的エミュレーションをトラックやミックスに使用することができます。

3バルブ・トポロジーを使用してソースを支配

Culture Vulture プラグインは、3つの異なるオールバルブサーキット・トポロジーによる豊富な倍音成分を含む、オリジナルのハードウェアの持つサウンド・キャラクターを細部に渡ってエミュレートしています。ハイゲイン、スタジオグレードのデュアルステージ・バルブディストーションの完全再現によって、既存のトラック、バスやミックスに繊細なカラーから破壊されるような激しい音までを加えることができます。

Triode (T) モードは、Apollo インターフェイスを使用して DI 接続したベースやシンセ・シグナルのリアルタイム・トラックングや、ミックスバスなどのソースにソフトでウォームなサウンドを加える事ができます。Pentode モード 1 (P1) では、ボーカルやリズムギターなどに、エッジを加える事ができます。これで充分ではない場合、モデリングすることがほぼ不可能だった Pentode モード 2 (P2) を使用することで、独特であり、クリエイティビティを刺激する激しいディストーション・サウンドを提供します。

本物の、オールバルブ・サーキット

Thermionic Culture Vulture は、Culture Vulture のチューブ・ドライブ回路がダイナミックにバイアス・レスポンスと、パワフルなステレオコントロール機能を駆使して自在に操ります。

6AS6 チューブ に送られるインプット・シグナルの量をドライブ・ノブ、オーバードライブ・スイッチでコントロールし、最大 20dB のゲインを加えることが可能です。 バイアス・コントロールは、インプットの電圧をコントロールします。レスポンスが劇的に変化するため、クリーンなサウンドから激しく歪んだサウンドまで、電圧が欠けたような音抜けしたサウンドやゲートエフェクトなど、多彩なサウンドを作り出すことができます。またフィルター・コントロールを使用して(9kHz / 6kHz)、好みのタイプのディストーション・サウンドに仕上げることも可能です。

Thermionic Culture Vulture 自体はコンプレッサーではありませんが、サウンドに一体感を持たせるような効果を得ることができます。例えば、バスやトータルミックスに適用し、ホットなチューブ・サウンドに微妙な違いを作り出すことができます。

Thermionic Culture Vulture スクリーンショット



Thermionic Culture Vulture プラグイン・ウィンドウ

操作について

2チャンネルプロセッサ

Thermionic Culture Vulture は、ステレオ、またはデュアルモノ・モードで使用可能な2チャンネル・デバイスです。ステレオ・シグナルに使用する場合は、コントロールリンク・スイッチを使用してステレオ・モードをアクティブにします。モノイン／モノアウトで使用する場合、どちらかのチャンネルのコントロールを調整するために使用することができます。

コントロールレイアウト

オリジナルのハードウェアと同様にチャンネル 1 と 2 のコントロールの配置は左右対称に並んでいます。

注: パラメーターの順序はオートメーション・ビューや、コントロールモード(一部の DAW では使用不可)ではミラーリングされません。

異例なコントロール

伝統的なハードウェアの設計と比べた場合、プラグイン・コントロールのいくつか (Bias、Filter、Power) が“逆方向”になっていますが、これはオリジナルのハードウェアのデザインを忠実に再現している結果です。。

拡張している 機能セット

Culture Vulture プラグインには、オリジナルのハードウェアにはない“ MIX と Control Link”という2つの重要なコントロールが提供されています。

Mix コントロールは、任意のバス上で並列処理を行うことで、ドラム、ボーカルやミックス全体にジェントルな真空管のプレゼンス、パンチや粒立ちを加える事ができます。コントロール・リンク機能では、完璧にマッチしたステレオイメージでのコントロールを行うことができ、ステレオ時の調整の容易にします。

アーティストプリセット Thermionic Culture Vulture プラグインは、著名なユーザーによるアーティスト・プリセットが含まれています。アーティスト・プリセットは、内部のファクトリー・バンクにあり、ホスト・アプリケーションのプリセット・メニューを介してアクセスすることができます。また、Apollo の Console アプリケーション内でも使用できるよう UAD インストーラーによってインストールされます。プリセットは、UAD ツールバーの Setting メニューを使用してロードすることができます。(UAD システムマニュアルの7章“UAD パワードプラグインの使用方法”を参照してください)

このプラグインは、内部のファクトリー・バンクに使用できない追加のアーティスト・プリセットが含まれています。これらの追加プリセットも UAD ツールバーの Setting メニューを使用してアクセスすることができます。

アップサンプリング プラグイン

このプラグインは望ましいサウンドのクオリティを達成するために内部アップサンプリング技術を使用しています。アップサンプリングを使用すると他の UAD プラグインよりもレイテンシーがわずかに増える場合があります。(176.4kHz で 55 サンプル、192kHz で 88 サンプル)

この追加されるレイテンシーは、最新の DAW では、自動的に補正され、本質的には検出不可能です。詳細については UAD システムマニュアルの第 9 章“遅延補正”を参照してください。

Thermionic Culture Vulture コントロール

チャンネル 1 とチャンネル 2 のコントロールは全く同じなので、説明は一度だけ行います。Link、Mix、Power コントロールは両方のチャンネルに適用されます。

Drive



Drive は、6AS6 ディストーション・バルブに送られるインプット・ゲインの (EF86 インプットステージ・バルブで増幅される) 量をコントロールします。コントロールを時計回りに回すとディストーション量を増加させます。

使用可能なドライブの範囲は、1～11 までです。値は任意であり、絶対値を示すものではありません。

Bias

6AS6 ディストーション・バルブのカソード(陰極)に流れる電流の量を変化させます。バイアス電流の量はメーターに表示されます。



バイアスは、ディストーション・キャラクターに大きな影響を与えます。このコントロールの動作は、オリジナルのハードウェアに忠実に再現され、逆に動作します。

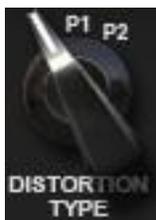
時計回り(正方向)に回転させるとバイアス電流を減少させ、クリーンで細いサウンドを生成します。低いバイアス電流でカソードは、硬くなり、簡単に崩壊します。もっとも低い設定では、シグナルのピークのみがゲーティング効果を得て、バルブを通過します。

反時計回り(逆方向)に回転させるとバイアス電流が上昇し、ハーモニック・ディストーションが得られ、一般的に厚く、丸いトーンが得られます。より高いバイアス電流でカソードは、供給過多になり、リッチでファットなサウンドが得られます。

中間の設定では、通常はベストであり、明らかなディストーションがなく、サウンドを穏やかにウォームなサウンドが得られます。もっとも美しいセッティングは、約 0.25 ~ 0.3 ミリアンペアです。

デフォルトのバイアス・ノブの値は、6 でバイアス電流は 0.45 ミリアンペアです。1～11 のノブの値は任意で絶対値ではありません。

Distortion Type



6AS6 ディストーション・バルブは、チューブ回路の内部配線を変更することによって3つの異なる動作モードを使用することができます。異なるキャラクターが得られるように、ディストーションタイプ・スイッチによってモードを切り替えます。

このスイッチは、Drive、Bias、Overdrive コントロールと幅広く相互作用します。使用可能なディストーションタイプとそれらのキャラクターをいかに説明します。

T (Triode)

Triode モードは、より多くの 2 次(偶数)のハーモニクスを発生させ、一般的に言えば、クリーンでスムーズ、そして“スイート”な歪みが得られるモードです。Triode モードで明らかに歪みのないシグナルには、チューブのウォームなサウンドを加えます。

P1 (Pentode 1)

Pentode 1 モードは、より多くの 3 次(奇数)ハーモニクスを発生させ、Triode モードと比べ、よりとげとげしく、大きなサウンドを提供します。

P2 (Pentode 2)

Pentode 2 モードは、特に高いバイアス電流や、オーバードライブが有効になっていると、5 極管(Pentode)サーキットが変わったワイヤリングになり、特にアグレッシブなサウンドが得られます。

この設定では、周波数のダブリングやゲート、スタッターなど、派手なエフェクトを生じさせることが可能です。このモードは、Triode や Pentode 1 モードよりも静かな場合が普通です。

このモードでは、面白いフェイズの挙動を作り出すこともできます。極端な設定では、ソース・シグナルに応じて極性を反転させることができます。

Overdrive

6AS6 ディストーション・バルブに入力するシグナルにさらに歪みを加えるために 20dB のゲインを適用します。



注: オーバードライブを有効にする場合、レベルが大幅に増加することがあるのでアウトプット・レベルには注意が必要です。(他の設定によって異なります)

スイッチが下向きになっている時は、オーバードライブがオンになります。デフォルト値はオフ(上向き)です。Filter、Bypass、Power スイッチと同様に典型的なハードウェア設計とは逆向きになっています。

このスイッチの動作は、オリジナルのハードウェアから変化があります。オーバードライブがオフになっている時、クリーンなゲインが 9dB インプットシグナルに加えられます。この余分なゲインは、オーバードライブがオンになった時に、オリジナルのハードウェアで起こる極端なレベルの変化を補正し、オーバードライブのオンオフを簡単に比較する等、利便性を高めるためにプラグインに用意されました。

Filter



フィルターは、よりスムーズなサウンドを得るために 6AS6 ディストーションバルブ・サーキットのアウトプットに 12dB/オクターブのハイパス・フィルターを適用します。

Overdrive、Bypass、Power スイッチと同様に典型的なハードウェア設計とは逆向きになっています。スイッチが中段、下段にある時は、フィルターがオンになります。デフォルト値はオフ(上向き)です。

注: フィルターがオフになっていても周波数の上方はわずかにロールオフを起こします。しかし、ディストーション・タイプが P2 を選択している場合は、ロールオフは起こりません

Output Level

アウトプット・レベルはアウトプット・バルブ(タイプ 5963)独自のカラーを持ち、バルブに入力されるシグナルの量をコントロールします。



つまみの値が 8~9 にある時がもっともクリーンなアウトプットを生成します。9 以上のセッティングでは、アウトプット・バルブがオーバードライブを起こし、ディストーションが増します。

使用可能な範囲は、1 ~ 11 までで、デフォルトでは最大値です。値は任意のものであり、絶対値ではありません。

Bypass



プラグインの処理を無効にします。UAD DSP を抑えたい場合、完全なバイパスを行うために、Power スイッチを使用してください。

スイッチが下向きになっている時は、ディストーション処理がオンになっています。Overdrive、Filter、Power スイッチと同様に典型的なハードウェア設計とは逆向きになっています。

Control Link

チャンネル 1 と 2 のコントロールをステレオ・リンクします。

LINK の位置にある時、1 つのチャンネルのコントロールを調節すると、もう片方のチャンネルの同じコントロールが同じ値を指します。



プラグインがステレオ(またはモノイン/ステレオアウト)で使用される場合、コントロールリンクは、デフォルトで有効になっています。ステレオ・シグナル上で左右のチャンネルを独立して調整したい場合は、スイッチを左側(CTRL)に変更してください。

モノラルで使用する場合には、LINK 側に固定されます。

重要: コントロール・リンクが使用されている場合、チャンネル 1 の値はすべてチャンネル 2 にコピーされ、チャンネル間のオフセットはすべて失われます。

Mix



プラグインが処理したシグナルとオリジナルのドライソース・シグナルとの出力バランスを調節します。ミックスは、DAW上でさらなるルーティングを作成しなければならない並列処理を行うことができます。

0% (最小値) に設定すると未処理のソース (ドライ) シグナルだけを出力します。100% (デフォルト値) に設定すると処理した (ウェット) シグナルだけを出力します。50% に設定するとドライとウェットシグナルは等しくミックスして出力します。バランスはコントロールの範囲中で連続的な可変を行うことができます。

Power

プラグインが動作するかどうかを決定します。パワー・スイッチが OFF (上方向) にある場合は、プラグインは使用不可能です。そして UAD DSP 消費率は軽減されます。(UAD Load Lock 未使用時)。

Overdrive、Filter、Bypass スイッチと同様に典型的なハードウェア設計とは逆向きになっています。

Power Lamp (電源ランプ)

プラグインが動作中は、パワースイッチ上のランプが点灯します。

ヒント: パワーランプをクリックしてプラグインのオン/オフを切り替えることができます。



Meters (メーター)



6AS6 ディストーション・バルブを流れるバイアス電流をミリアンペア単位で表示します。バイアス電流は Bias コントロールで調整することができます。

バイアス電流は、特に高いディストーション設定ではソース・シグナルの影響を受けることに注意してください。

さらに、インプットシグナル・レベルに応じてメーター・バイアスが調整されていない場合、変動することがあります。

“警告：このユニットをまじめに使わない
でください。Culture Vulture は、楽しめるエ
フェクト・ユニットであり、最大限の喜びを得るため
に設計されています。”

- Thermionic Culture Ltd.



Thermionic Culture Vulture ハードウェア・ユニット